

# 鎌倉市由比ヶ浜南遺跡9号墓出土の中世人骨

松下孝幸\*・松下真実\*\*

【キーワード】：神奈川県、中世人骨、集骨、頭蓋、幼小児骨、刀創

## はじめに

神奈川県鎌倉市由比ヶ浜四丁目1101番2外に所在する由比ヶ浜南遺跡は、県営地下駐車場建設に伴って発掘調査が実施された遺跡である。1995(平成7)年3月から1997(平成9)年9月にかけての発掘調査で、埋葬人骨遺構と集骨遺構とが検出され数千体の人骨が出土した。集骨された人骨の体数は3108体をカウントしたが、正確な体数は不明であり、少なくとも3108体は存在するが、実数はおそらく4000体に達すると思われる。集骨遺構のうち、158号墓、5318号墓、204B号墓、123号墓から出土した人骨については人骨所見などをすでに報告した(松下、2002)。その他の遺構から出土した人骨については、復元作業に時間がかかり、人骨所見の報告ができていない。残りの遺構から出土した人骨の整理作業を現在も継続しており、今後、復元が終了したものについて順次報告していく予定である。

今回は、整理作業や復元作業が終わった9号墓出土人骨について、体数や人骨所見を報告する。

## 資料

本稿は9号墓から検出された人骨所見の報告である。人骨は集骨遺構から検出されたもので、一次葬の様相を呈するものは存在しない。人骨を取り上げる際に、番号がつけられているが、人骨を解剖学的に精査して、体数などを検討した。9号墓から検出された人骨は、頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨、腓骨などであるが、頭蓋の数が四肢骨よりも多い。また、成人の頭蓋よりも幼小児の頭蓋の方が多いが、幼小児の四肢骨は3体分の大腿骨しか存在しない。人骨番号や性別、年齢などは表2に示した。なお、本人骨は考古学的所見から、中世に属する人骨である。

成人骨と幼小児骨ともに、数が最も多いのは頭蓋である。精査したところ、複数の頭蓋骨からなる成人頭蓋は8体分(SK-1,2,7,9,11,19,28,27)ある。この8体に属さない左側頭頂骨が1個(SK-6)存在するので、成人頭蓋の数は9体分(男6、女1、不明2)である。また、成人の四肢骨は、上腕骨が1体分、大腿骨が4体分、脛骨が7体分、腓骨が1体分存在する。従って、成人の最小(少)個体数は頭蓋から9体分(男6、女1、不明2)である。

幼小児骨については、頭頂骨を含む複数の頭蓋骨からなる頭蓋は6体(SK-4,5,8,10,14,18)、左右の頭頂骨からなる頭蓋は6体(SK-13,20,25,26,29,30)、これらに属さない右側頭頂骨は2点(SK-23,32)、左側頭頂骨は3点(SK-21,24,33)あるが、この5点の頭頂骨は対をなさないもので、それぞれ別個体である。頭頂骨の数が最も多いので、頭頂骨をもとに個体数を推測すると合計17体となる。そのほかに前頭骨のみが5点(SK-12,15,16,22,34)、後頭骨のみが2点(SK-3,31)、下顎骨が3点、歯のみが3点存在する。

従って、9号墓から検出された人骨の最小(少)個体数は、頭蓋の数から、成人9体分(男6、女1、

不明 2) と幼児 17 体分の合計 26 体である (表 1)。人骨は頭蓋が多く、四肢骨の量が少ないが、とくに幼児の四肢骨は頭蓋の数に比べて極端に少ない。幼児の遺骨を集積する際、四肢に比べて目立つ頭蓋だけを採集した可能性が強い。幼児の個体数が成人のそれよりも多いことから、9 号墓 (遺構) は、幼児の頭蓋を主体にした集骨遺構である。

計測方法は、Martin-Saller(1957) によったが、脛骨の横径はオリビエの方法 (前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測) で計測し、鼻根部については鈴木 (1963) と松下ら (1983) の方法で計測した。なお、年齢区分を表 3 に示した。

表 1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼児	合計
男性	女性	不明		
6	1	2	17	26

表 3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1 歳未満
	幼児	1 歳～ 5 歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6 歳～ 15 歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16 歳～ 20 歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21 歳～ 39 歳 (40 歳未満)
	熟年	40 歳～ 59 歳 (60 歳未満)
	老年	60 歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書 (1996) を参照されたい。

## 所見

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

### 1 頭蓋

#### SK-1 (頭蓋、男性・壮年)

##### (1) 脳頭蓋

左右の頭頂骨、左右の側頭骨と後頭骨の一部が残存していた。頭頂骨はいずれも鱗縁に近い部分である。骨壁は薄い、堅牢である。外後頭隆起と乳様突起の様態は不明である。右側の外耳道の観察ができたが、骨腫は認められない。冠状縫合とラムダ縫合の観察ができたが、両者とも内外両板はまだ開離していたようである。脳頭蓋の計測はできない。

##### (2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋と左側の下顎枝、遊離歯が残存していた。顔面を復元することができた。眉上弓は強く隆起している。鼻骨や眼窩間の幅は狭い。眉上弓と眉間が強く隆起している、鼻根部はやや陥凹し

ている。頬骨は大きく、外側への張り出しは強い。

顔面頭蓋の計測値は、中顔幅が 102mm で、頬骨弓幅、顔高、上顔高は計測できない。眼窩幅は 44mm(右)、42mm(左)、眼窩高は 35mm(右)、36mm(左) で、眼窩示数は 79.55(右)、85.71(左) となり、右側は中眼窩 (mesokonch) に、左側は高眼窩 (hypsikonch) に属している。

鼻幅は 26mm、鼻高は 49mm で、鼻示数は 53.06 となり、低鼻 (chamaerrhin) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が 18mm、鼻根横弧長は 20mm、鼻根彎曲示数は 90.00 となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は 96mm で、眼窩間示数は 18.75 となり、顔の幅に対して、眼窩間幅が狭い。鼻骨最小幅は 8mm である。前頭突起水平傾斜角は計測できないが、前頭突起の向きは前額方向である。鼻頬骨角は 151 度で、角度は大きく、顔面扁平示数は 12.63 で、顔面は扁平である。

### (3) 歯

歯が残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 / / / 2 1 1	2 / / / 6 7 8	[ / : 不明 (破損) 、番号は歯種]
/ / / 5 4 3 / / /	/ 3 4 5 / 7 /	

[1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯]

咬耗度は Broca の 1 度 (咬耗がエナメル質のみ) で、咬耗は弱い。

### (4) 性別・年齢

眉上弓と眉間の隆起が強いことから、性別を男性と推定した。年齢は冠状縫合とラムダ縫合の内外両板が開離していることから、壮年と思われる。

## SK-2 (頭蓋、男性・壮年)

### (1) 脳頭蓋

頭頂骨の後部と外側部の一部を欠損している。外後頭隆起の発達は良好であるが、乳様突起の様態は不明である。三主縫合の観察ができたが、内外両板とも開離している。両側の外耳道の観察ができたが、左右とも骨腫は認められない。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が 190mm、頭蓋最大幅は 145mm、バジオン・ブレグマ高は (143) mm である。頭蓋長幅示数は 76.32、頭蓋長高示数は (75.26)、頭蓋幅高示数は (98.62) となり、頭型は中・高・尖頭型 (meso-,hypsi-,akrokran) に属している。また、横弧長は 330mm である。

### (2) 顔面頭蓋

鼻骨と左側頬骨の一部を欠損している。眉上弓は強く隆起している。眉上弓と眉間が強く隆起しているので、鼻根部はやや陥凹している。頬骨が外側へ張り出し、屈強である。

顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅が [68 × 2 = 136] mm、中顔幅は 104mm、上顔高は 66mm で、上顔示数は [48.53] (K)、63.46 (V) となり、顔面には著しい低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は 42mm(右)、42mm(左)、眼窩高は 32mm(右)、32mm(左) で、眼窩示数は 76.19(右)、76.19(左) となり、両側とも中眼窩 (mesokonch) に属している。

鼻幅は 28mm、鼻高は 52mm で、鼻示数は 53.85 となり、低鼻 (chamaerrhin) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が 19mm、両眼窩幅は 98mm で、前頭突起水平傾斜角は 85 度を示し、

前頭突起の向きは矢状方向である。

鼻頬骨角は 131 度で、この角度は小さく、顔面扁平示数は 20.21 となり、顔面の扁平性は弱い。

側面角は、全側面角が 85 度、鼻側面角が 90 度、歯槽側面角は 68 度で、歯槽性突顎の傾向は弱い。

### (3) 性別・年齢

外後頭隆起の発達が良好で、眉上弓も強く隆起していることから、性別を男性と推定した。年齢は三主縫合の内外両板がともに開離していることから、壮年と思われる。

### SK-28(頭蓋、女性・壮年)

頭蓋冠である。左側頭頂骨に刺突痕が 1ヶ所みられる。場所は左側頭頂部で、矢状縫合と冠状縫合に近い位置である。刺突痕は長径約 8mm、短径約 5mm の楕円形を呈しており、外板の孔縁は鋭く、内板は剥離している。孔縁の内外両板の状態は、断面が楕円形呈する利器が頭蓋の外板から頭蓋内へ入ったことを示している。眉上弓の隆起が弱いことから、女性頭蓋と推測した。年齢は観察できた冠状縫合と矢状縫合の内外両板が開離していることから、壮年と思われる。

## II 下顎骨

### MA-1(女性)

左側半分が残存していた。経は小さく、下顎枝は低い。下顎切痕は浅く、下顎角は外反している。径が小さいことから女性下顎骨と推測した。

### MA-2(性別不明)

左側下顎体の一部である。高径が低く、径が小さいことから未成人の下顎骨かもしれない。

### MA-3(小児、6歳)

左側半分が残存していた。第一乳臼歯、第二乳臼歯、第一大臼歯が萌出しており、第二大臼歯冠、左右の側切歯が骨内に埋伏している。第一大臼歯の歯冠の形成程度から年齢は 6 歳頃と思われる。乳歯の咬耗度は Broca の 1 度(咬耗がエナメル質のみ)で、咬耗は弱い。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ 7 6 V IV Ⅲ 2 ① | ① 2 Ⅲ / / / / /

〔○：歯槽開存 /：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

〔I：乳中切歯、II：乳側切歯、III：乳犬歯、IV：第一乳臼歯、V：第二乳臼歯〕

### MA-4(幼児、4歳)

下顎体の一部と歯が残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／ / III / / | / / III / /  
V IV / II I | I II / IV V

〔I：乳中切歯、II：乳側切歯、III：乳犬歯、IV：第一乳臼歯、V：第二乳臼歯〕

/// 5 / 3 2 1 | 1 2 3 /// 6 ///

〔/：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大白歯、7：第二大白歯、8：第三大白歯〕

永久歯の歯根はほとんど形成されていないが、歯根の形成状態から年齢は4歳程度と推測される。乳白歯はかなり咬耗している。

### MA-5 (小児、9歳)

下顎体の一部と下顎歯が残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

V IV /// | /// / V

(I：乳中切歯、II：乳側切歯、III：乳犬歯、IV：第一乳白歯、V：第二乳白歯)

/// 5 4 3 2 1 | /// 4 / 6 7 /

〔/：不明(破損)、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大白歯、7：第二大白歯、8：第三大白歯〕

歯根の形成状態から年齢は9歳程度と推測される。

## III 上腕骨

### HU-1 (男性)

右側骨体である。観察と計測ができた。骨体はそれほど大きいものではないが、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央最大径が22mm(右)、中央最小径は18mm(右)で、骨体断面示数は81.82(右)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体最小周は62mm(右)、中央周は67mm(右)で、骨体はやや細い。

骨体はやや細いが、三角筋粗面の発達が良好なので、男性上腕骨と推測した。

## IV 大腿骨

### FE-1 (小児、8～10歳)

左側骨体である。計測値は、骨体中央矢状径が18mm(左)、横径は15mm(左)で、骨体中央断面示数は120.00(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体中央周は55mm(左)で、骨体は細い。また、骨体上横径は22mm(左)、骨体上矢状径は16mm(左)で、上骨体断面示数は72.73(左)となり、骨体上部はかなり扁平である。

### FE-2 (幼児、4歳前後)

左側骨体である。計測値は、骨体中央矢状径が12mm(左)、横径は11mm(左)で、骨体中央断面示数は109.09(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は比較的良好である。骨体中央周は39mm(左)で、骨体は細い。また、骨体上横径は17mm(左)、骨体上矢状径は12mm(左)で、上骨体断面示数は70.59(左)となり、骨体上部はかなり扁平である。

### FE-3 (女性)

右側骨体である。計測値は、骨体中央矢状径が21mm(右)、横径は22mm(右)で、骨体中央断面示数は95.45(右)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体中央周は69mm(右)で、骨体は細い。また、骨体上横径は27mm(右)、骨体上矢状径は20mm(右)で、上骨体断面示数は74.07(右)となり、骨体上部は扁平である。骨体の経が細いことから、女性大腿骨と推測した。

### FE-4 (小児、12歳)

右側骨体である。計測値は、骨体中央矢状径が21mm(右)、横径は22mm(右)で、骨体中央断面示数は95.45(右)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達は悪い。骨体中央周は69mm(右)で、骨体は細い。また、骨体上横径は26mm(右)、骨体上矢状径は19mm(右)で、上骨体断面示数は73.08(右)となり、骨体上部は扁平である。

## V 脛骨

### TB-1 (女性)

女性の左側骨体遠位部が残存していた。骨体は細い。外側面に病変(縦状線紋を呈する骨膜炎)がみられる。

### TB-2 (性別不明)

右側の近位端である。性別は不明である。

### TB-3 (男性)

左側骨体が残存していた。骨体の経は大きく、ヒラメ筋線の発達も良好で、骨体の断面形はヘリチカのIV型(後面に一稜を形成し、断面型は菱形)を呈している。また、骨体の内外両側面には病変(縦状線紋を主体とする骨膜炎)がみられる。骨体の径が大きいことから、男性脛骨と推測される。

### TB-4 (男性)

右側骨体である。計測値は、中央最大径が28mm(右)、中央横径は19mm(右)で、中央断面示数は67.86(右)となり、骨体はわずかに扁平である。骨体周は76mm(右)、最小周は70mm(右)で、骨体はあまり大きくはない。骨体の断面形はヘリチカのV型(後面が卵円形)を呈している。骨体はやや細いが、扁平であることなどの形状から男性脛骨と推測した。

### TB-5 (男性)

左側骨体である。計測値は、中央最大径が30mm(左)、中央横径は18mm(左)で、中央断面示数は60.00(左)となり、骨体は扁平である。骨体周は77mm(左)、最小周は71mm(左)で、骨体は大きい。ヒラメ筋線の発達は悪い。骨体の断面形はヘリチカのV型(後面が卵円形)を呈している。脛骨体が大きいので、男性脛骨である。

## TB-6 (男性)

左側骨体である。計測値は、中央最大径が 32mm(左)、中央横径は 23mm(左)で、中央断面示数は 71.88(左)となり、骨体はわずかに扁平である。骨体周は 88mm(左)、最小周は 80mm(左)で、骨体は太い。ヒラメ筋線の発達は良好である。骨体の断面形はヘリチカの I 型(断面形がほぼ正三角形)を呈している。脛骨体がかなり大きいので、男性脛骨である。

## TB-7 (男性)

左側骨体である。計測値は、中央最大径が 33mm(左)、中央横径は 21mm(左)で、中央断面示数は 63.64(左)となり、骨体は扁平である。骨体周は 86mm(左)、最小周は 78mm(左)で、骨体は太い。ヒラメ筋線の発達はよくないが、後面には一稜が形成されており、骨体の断面形はヘリチカの IV 型(後面に一稜を形成し、断面型は菱形)を呈している。脛骨体がかなり大きいので、男性脛骨である。

## VI 腓骨

### FB-1 (女性)

左側骨体である。骨体は細い。女性脛骨と思われ、TB-1 と一緒に採集されていることからこの脛骨と同一個体と推測される。

## 要 約

神奈川県鎌倉市にある由比ヶ浜南遺跡の 9 号墓(集骨)から出土した人骨の整理・復元をおこない、体数と人骨所見を検討した。その結果を要約すると次のとおりである。

1. 9 号墓から出土した人骨は、頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨、腓骨で、その他に歯や肋骨、椎骨の骨片が出土しているが、頭蓋が多く、四肢骨の量はかなり少ない。
2. 成人頭蓋の数は 9 体分(男 6、女 1、不明 2)である。また、成人の四肢骨は、上腕骨が 1 体分、大腿骨が 4 体分、脛骨が 7 体分、腓骨が 1 体分存在する。従って、成人の最小(少)個体数は頭蓋から 9 体分(男 6、女 1、不明 2)である。幼児の頭蓋は 17 体分である。未成人の四肢骨は、大腿骨が 3 体分存在する。従って、幼児の最小(少)個体数は頭蓋から 17 体で、本遺構から出土した人骨の体数は頭蓋の数から合計 26 体分である。
3. 頭蓋は 26 体分が確認できたが、成人頭蓋よりも未成人(幼児)の頭蓋が多い。
4. 本人骨群は、考古学的所見から、中世に属する人骨群である。
5. 男性 1 体(SK-4)について脳頭蓋の計測ができた。頭蓋長幅示数は 76.32 で、頭型は中頭型である。顔面の計測も男性 1 体(SK-4)が可能で、頬骨弓幅は [136] mm、中顔幅は 104mm、上顔高は 66mm で、上顔示数は [48.53] (K)、63.46 (V) となり、顔面には著しい低・広顔傾向が認められる。
6. 頭蓋に刀創が認められるものが 1 例(SK-11・男)、刺突痕がみられるものが 1 例(SK-28・女)、脛骨に病変(骨膜炎)がみられるものが 2 本(TB-1・女、TB-3・男)存在する。
7. 出土した人骨は、四肢骨よりも頭蓋の数が多く、しかも成人頭蓋よりも幼児の頭蓋が多いことから、本遺構は幼児の頭蓋を主体とした集骨遺構である。

《参考文献》

1. Martin-Saller、1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
2. 松下孝幸・他、1983：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報（豊北町埋蔵文化財調査報告2）：19-30.
3. 松下孝幸、2002：神奈川県鎌倉市由比ヶ南遺跡出土の中世人骨。神奈川県・鎌倉市由比ヶ南遺跡〈第3分冊・分析編Ⅱ〉：1-99.
4. 松下孝幸、2002：鎌倉市由比ヶ南遺跡集骨墓出土中世人骨の埋葬と個体数および受傷人骨。神奈川県・鎌倉市由比ヶ南遺跡〈第3分冊・分析編Ⅱ〉：101-134.
5. 鈴木 尚、1963：日本人の骨。岩波書店、東京。

\*Takayuki MATSUSHITA、\*\*Masami MATSUSHITA(特定非営利活動法人人類学研究機構)

表2 由比ヶ浜南9号墓出土人骨一覧(Table 2. List of skeletons)

人骨番号	取り上げ番号	性別	年齢	残存部位など
SK-1	9-1、9-2	男	壮年	
SK-2	9-4	男	壮年	
SK-3	9-5	—	幼児	後頭骨の一部のみ
SK-4	9-6	—	小児(9歳)	
SK-5	9-8	—	小児	前頭骨・頭頂骨・後頭骨
SK-6	9-9-2	不明	壮年	頭頂骨(左)のみ
SK-7	9-10	男	—	
SK-8	9-11	—	小児	前頭骨・頭頂(左)・後頭骨
SK-9	9-17	男	壮年	
SK-10	9-20	—	小児	前頭骨・頭頂骨
SK-11	9-24	男	壮年	刀創
SK-12	9-26	—	幼児	前頭骨のみ
SK-13	9-27	—	幼児	頭頂骨(左右)
SK-14	9-30	—	小児(9歳)	
SK-15	9-32	—	幼児	前頭骨のみ
SK-16	9-34	—	幼児	前頭骨のみ
SK-17	9-35	不明	不明(成人)	前頭突起(左)頬骨(左) 側頭骨(右)のみ
SK-18	9-36	—	小児(9歳)	
SK-19	9-43	男	壮年	
SK-20	9-44	—	幼児	頭頂骨(左右)・前頭骨
SK-21	9-46	—	幼児	頭頂骨(左)のみ
SK-22	9-47	—	幼児	前頭骨のみ
SK-23	9-48	—	幼児	頭頂骨(右)のみ
SK-24	9-49	—	幼児	頭頂骨(左)のみ
SK-25	9-53	—	幼児	頭頂骨(左右)
SK-26	9-57-1	—	幼児	頭頂骨(左右)・前頭骨
SK-27	9-57-2	不明	壮年	頭頂骨(左右)・後頭骨
SK-28	9-58	女	壮年	刺突痕(5mm×8mm)
SK-29	9-60	—	幼児	頭頂骨(左右)・後頭骨
SK-30	9-61	—	幼児	頭頂骨(右)のみ
SK-31	9-67-1	—	幼小児	後頭骨のみ
SK-32	9-71	—	幼児	頭頂骨(右)のみ
SK-33	9-72	—	幼児	頭頂骨(左)のみ
SK-34	9-73	—	幼児	前頭骨のみ
MA-1	9-19	女	—	下顎骨
MA-2	9-22	不明	—	下顎骨
MA-3	9-54	—	小児(6歳)	下顎骨
MA-4	9-38	—	幼児(4歳)	下顎骨
MA-5	9-39	—	小児(9歳)	下顎骨
TE-1	9-13	—	幼児(4~5歳)	歯のみ
TE-2	9-15	—	小児(9~10歳)	歯のみ
TE-3	9-28	—	小児(8~9歳)	歯のみ
TE-4	9-31	—	小児(10歳)	歯のみ
HU-1	9-62	男	—	上腕骨体(右)
FE-1	9-7	—	小児(8~10歳)	大腿骨体(左)
FE-2	9-50	—	幼児(2~4歳)	大腿骨体(左)
FE-3	9-63	女	—	大腿骨体(右)
FE-4	9-65	—	小児(12歳)	大腿骨体(右)
TB-1	9-21	女	—	脛骨体(左)、病変
TB-2	9-33	不明	不明(成人)	脛骨近位端(右)
TB-3	9-42	男	—	脛骨体(左)、病変
TB-4	9-63	男	—	脛骨体(右)
TB-5	9-64	男	—	脛骨体(左)
TB-6	9-67-1	男	—	脛骨体(左)
TB-7	9-68	男	—	脛骨体(左)
FB-1	9-21	女	—	腓骨体(左)、TB-1と同一個体

SK: 頭蓋、MA: 下顎骨、TE: 歯、HU: 上腕骨、FE: 大腿骨、TB: 脛骨、FB: 腓骨



表4 脳頭蓋(mm)(Calvaria)

	由比ヶ浜南9	
	SK-1	SK-2
1. 頭蓋最大長	190	190
8. 頭蓋最大幅	145	145
17. バジオン・プレグマ高	(143)	(143)
8/1 頭蓋長指示数	76.32	76.32
17/1 頭蓋長高示数	(75.26)	(75.26)
17/8 頭蓋幅高示数	(98.62)	(98.62)
1+8+17/3 頭蓋モズルス	(159.33)	(159.33)
5. 頭蓋底長	106	106
9. 最小前頭幅	98	98
10. 最大前頭幅	120	120
11. 両耳幅	124	124
12. 最大後頭幅	107	107
13. 乳突幅	-	-
7. 大後頭孔長	-	-
16. 大後頭孔幅	-	-
16/7 大後頭示数	-	-
23. 頭蓋水平周	-	-
24. 横弧長	330	330
25. 正中矢状弧長	-	-
26. 正中矢状前頭弧長	137	137
27. 正中矢状頭頂弧長	-	-
28. 正中矢状後頭弧長	-	-
29. 正中矢状前頭弦長	118	118
30. 正中矢状頭頂弦長	-	-
31. 正中矢状後頭弦長	-	-
29/26 矢状前頭示数	86.13	86.13
30/27 矢状頭頂示数	-	-
31/28 矢状後頭示数	-	-

( )=推定値

表5 顔面頭蓋(mm,度)(Facial skeleton)

	由比ヶ浜南9		由比ヶ浜南9	
	SK-1	SK-2	SK-1	SK-2
40. 顔長	-	-	-	-
41. 側顔長	-	-	72	-
42. 下顔長	-	-	-	72
43. 上顔幅	101	103	103	-
45. 頬骨弓幅	-	[136]	-	-
46. 中顔幅	102	104	104	-
47. 顔高	-	-	-	-
48. 上顔高	-	66	66	-
47/45 顔示数(K)	-	-	-	-
48/45 上顔示数(K)	-	[48.53]	[48.53]	-
47/46 顔示数(V)	-	-	-	-
48/46 上顔示数(V)	-	63.46	63.46	-
40+45+47/3 顔面モズルス	-	-	-	-
50. 前眼窩間幅	18	19	19	-
44. 両眼窩幅	96	98	98	-
50/44 眼窩間示数	18.75	19.39	19.39	-
51. 眼窩幅(右)	44	42	42	-
(左)	42	42	42	-
52. 眼窩高(右)	35	32	32	-
(左)	36	32	32	-
52/51 眼窩示数(右)	79.55	76.19	76.19	-
(左)	85.71	76.19	76.19	-
54. 鼻幅	26	28	28	-
55. 鼻高	49	52	52	-
54/55 鼻示数	53.06	53.85	53.85	-
55(1). 梨状口高	-	-	-	-
56. 鼻骨長	-	-	-	-
57. 鼻骨最小幅	-	-	-	-
鼻骨最大幅	-	-	-	-
57(1). 上顎齒槽長	-	-	-	-
60. 上顎齒槽幅	-	-	-	-
61. 口蓋長	-	68	68	-
62. 口蓋幅	-	-	-	-
63. 口蓋高	-	43	43	-
64. 上顎齒槽示数	-	11	11	-
61/60 口蓋示数	-	-	-	-
63/62 口蓋高示数	-	-	-	-
64/63 全側面角	-	25.58	25.58	-
72. 鼻側面角	-	85	85	-
73. 齒槽側面角	-	90	90	-
74. 齒槽側面角	-	68	68	-

( )=片側×2

表6 鼻根部(mm,度)(Nasal root)

	由比ヶ浜南9		由比ヶ浜南9	
	SK-1	SK-2	SK-1	SK-2
50. 前眼窩間幅	18	19	18	19
50A. 鼻根横弧長	20	-	20	-
50/50A 鼻根彎曲示数	90.00	-	90.00	-
57. 鼻骨最小幅	8	-	8	-
44. 両眼窩幅	96	98	96	98
50/44 眼窩間示数	18.75	-	18.75	-
a. 前頭突起上幅(右)	11	-	11	-
(左)	10	9	10	9
b. 前頭突起水平傾斜角	-	85	-	85
c. G-N投影距離	-	-	-	-
d. 鼻根角	-	-	-	-
e. G-R距離	-	-	-	-
f. 垂線高	-	-	-	-
f/e 鼻根陥凹示数	-	-	-	-
77. 鼻頬骨角	151	131	151	131
Fa fmo間距離	95	94	95	94
Fh 垂線高	12	19	12	19
Fh/Fa 顔面扁平示数	12.63	20.21	12.63	20.21

表8 上腕骨(mm)(Humerus)

	由比ヶ浜南9	
	HU-1	右
5. 中央最大径	22	22
6. 中央最小径	18	18
7. 骨体最小周	62	62
7(a). 中央周	67	67
6/5 骨体断面示数	81.82	81.82

表7 下顎骨 (mm、度) (Mandibula)

	由比ヶ浜南9	
	MA-1 女	MA-4 小児(6歳)
70. 枝高(右)	-	41
(左)	-	-
70(1). 前枝高(右)	-	44
(左)	51	-
70(2). 最小枝高(右)	-	35
(左)	43	-
70(3). 下顎切痕高(右)	-	9
(左)	-	-
71(1). 下顎切痕幅(右)	-	33
(左)	-	-
71. 枝幅(右)	-	34
(左)	34	-
71a. 最小枝幅(右)	-	34
(左)	64	-
79. 下顎枝角(右)	-	108
(左)	-	-
71/70 下顎枝示数(右)	-	82.93
(左)	-	-
71a/70(2) 下顎枝示数(右)	-	97.14
(左)	79.07	-
70(3)/71(1) 下顎切痕示数(右)	-	27.27
(左)	-	-

表11 腓骨 (mm) (Fibula)

	由比ヶ浜南9	
	FB-1 女	左
2. 中央最大径	13	-
3. 中央最小径	9	-
4. 中央周	37	-
4a. 最小周	-	-
3/2 中央断面示数	69.23	-

表9 大腿骨 (mm) (Femur)

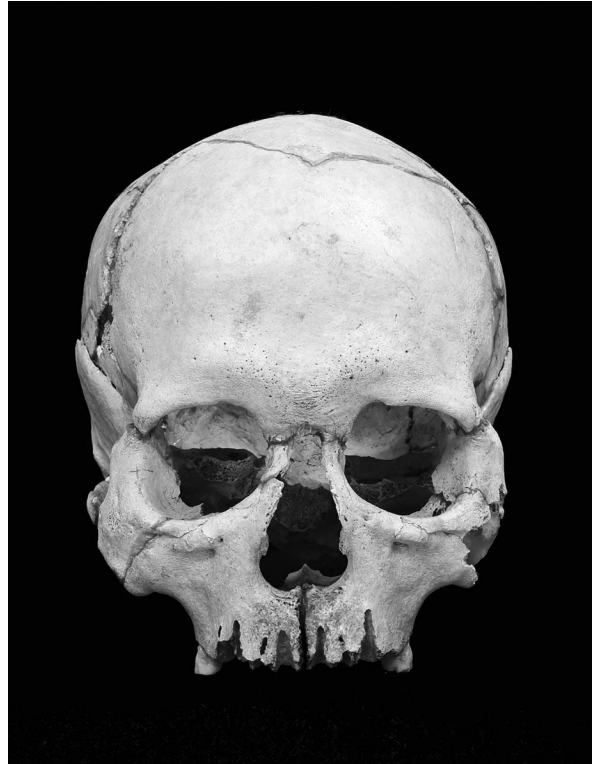
	由比ヶ浜南9			
	FE-3 女	FE-1 小児(8~10歳)	FE-2 幼児(4歳前後)	FE-4 小児(12歳)
6. 骨体中央矢状径(右)	21	-	-	21
(左)	-	18	12	-
7. 骨体中央横径(右)	22	-	-	22
(左)	-	15	11	-
8. 骨体中央周(右)	69	-	-	69
(左)	-	55	39	-
9. 骨体上横径(右)	27	-	-	26
(左)	-	22	17	-
10. 骨体上矢状径(右)	20	-	-	19
(左)	-	16	12	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	95.45	-	-	95.45
(左)	-	120.00	109.09	-
10/9 上骨体断面示数(右)	74.07	-	-	73.08
(左)	-	72.73	70.59	-

表10 脛骨 (mm) (Tibia)

	由比ヶ浜南9			
	TB-4 男	TB-5 男	TB-6 男	TB-7 男
8. 中央最大径(右)	28	-	-	-
(左)	-	30	32	33
8a. 栄養孔位最大径(右)	31	-	-	-
(左)	-	32	38	36
9. 中央横径(右)	19	-	-	-
(左)	-	18	23	21
9a. 栄養孔位横径(右)	19	-	-	-
(左)	-	18	23	23
10. 骨体周(右)	76	-	-	-
(左)	-	77	88	86
10a. 栄養孔位周(右)	82	-	-	-
(左)	-	84	98	94
10b. 最小周(右)	70	-	-	-
(左)	-	71	80	78
9/8. 中央断面示数(右)	67.86	-	-	-
(左)	-	60.00	71.88	63.64
9a/8 栄養孔位断面示数(右)	61.29	-	-	-
(左)	-	56.25	60.53	63.89



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

由比ヶ浜南 9 号墓 SK-2( 男性・壮年 )

( The skeleton SK-2 from the Yuigahama-minami site, young adult male)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

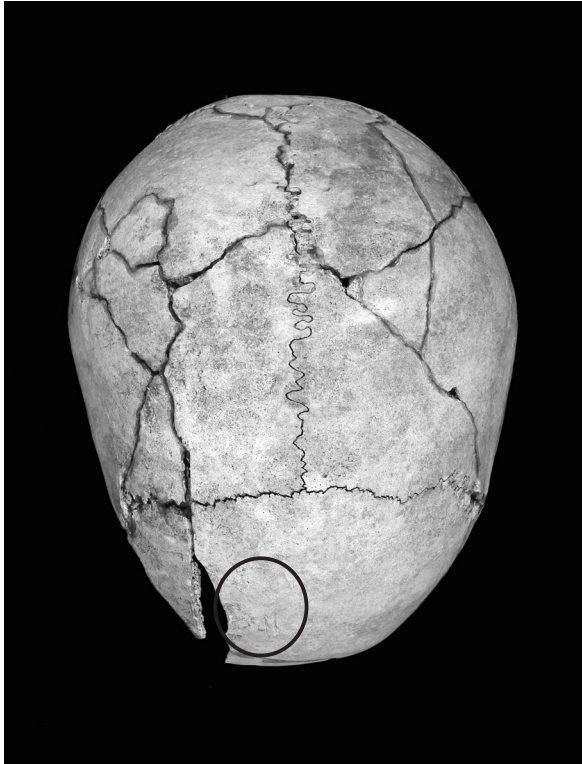
由比ヶ浜南 9 号墓 SK-1( 男性・壮年 )  
( The skeleton SK-1 from the Yuigahama-  
minami site,young adult male)

由比ヶ浜南 9 号墓 SK-12( 幼児 )  
( The skeleton SK-12 from the Yuigahama-  
minami site,infant)



下顎骨 (The mandible)

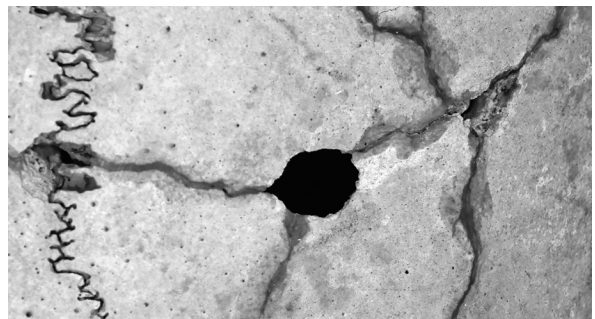
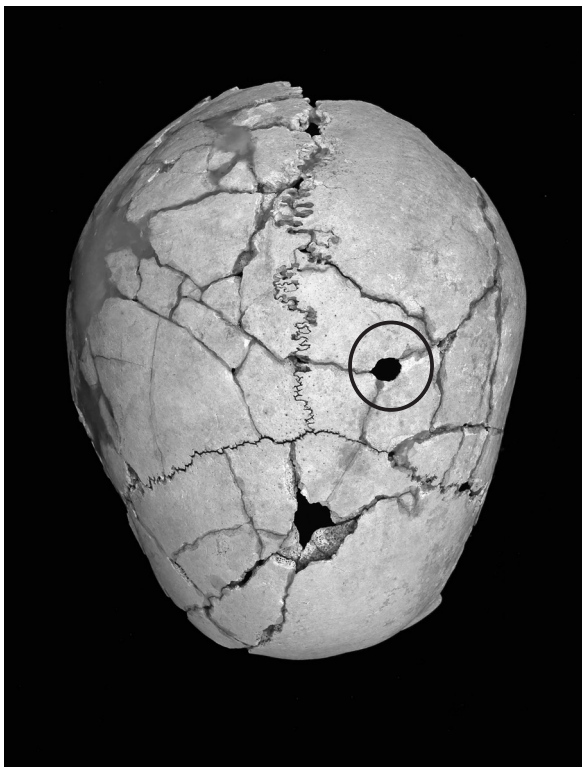
由比ヶ浜南 9 号墓 MA-3( 小児・6 歳 )  
( The skeleton MA-3 from the Yuigahama-minami site,juvenile)



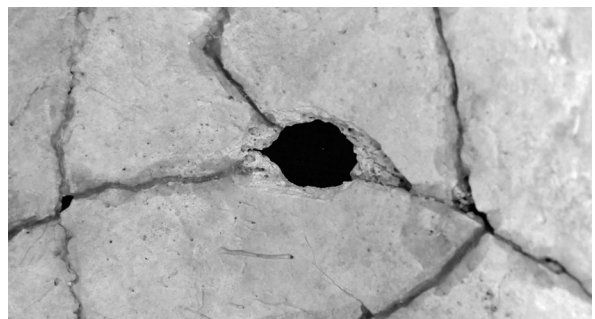
刀創 (Skull injured by swords)

由比ヶ浜南 9 号墓 SK-11( 男性・壮年 )

( The skeleton SK-11 from the Yuigahama-minami site, young adult male )



( 外板 )



( 内板 )

刺突痕 (pierced Scar)

由比ヶ浜南 9 号墓 SK-28( 女性・壮年 )

( The skeleton SK-28 from the Yuigahama-minami site, young adult female )



HU-1 (男性)(male)  
右上腕骨  
(The right Humerus)



FE-1 (小児)(juvenile)  
(8 ~ 10 歳)  
左大腿骨  
(The left femur)



FE-2 (幼児)(infant)  
(4 歳前後)  
左大腿骨  
(The left femur)



FE-3 (女性)(female)  
右大腿骨  
(The right femur)



FE-4 (小児)(juvenile)  
(12 歳)  
右大腿骨  
(The right femur)



TB-4 ( 男性 )(male)  
右脛骨  
(The right Tibia)



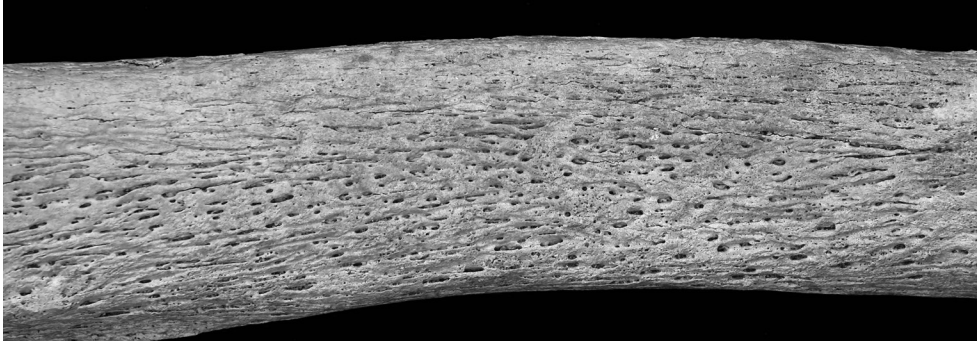
TB-5 ( 男性 )(male)  
左脛骨  
(The left Tibia)



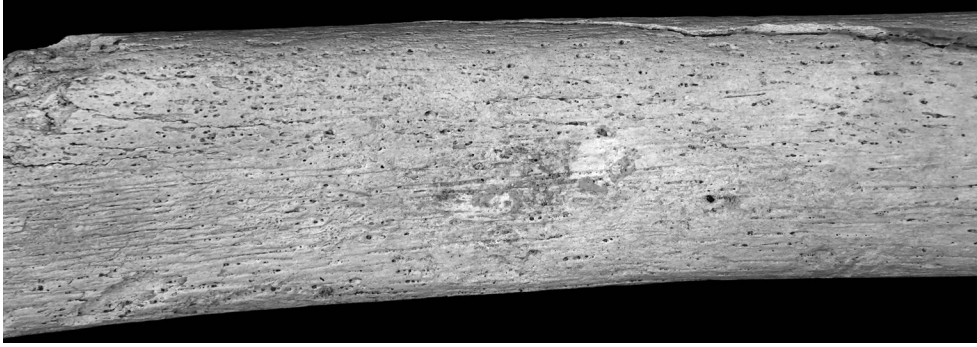
TB-6 ( 男性 )(male)  
左脛骨  
(The left Tibia)



TB-7 ( 男性 )(male)  
左脛骨  
(The left Tibia)



病変 (骨膜炎) がみられる脛骨 (morbid tibia)(periostitis)  
TB-3 (男性)(male)



病変 (骨膜炎) がみられる脛骨 (morbid tibia)(periostitis)  
TB-1 (女性)(female)



---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第 13 号

発行年月日 2018年3月  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8  
TEL 083-788-1841  
FAX 083-788-1843  
印 刷 藤井印刷株式会社  
〒750-0009 山口県下関市上田中町 5-6-24  
TEL 083-231-1612  
FAX 083-222-8611

---